

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-79776

(P2003-79776A)

(43) 公開日 平成15年3月18日 (2003.3.18)

(51) IntCl¹

A63B 69/36

識別記号

501

F I

A63B 69/36

ページコード(参考)

501B

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全4頁)

(21) 出願番号 特願2001-322856 (P2001-322856)

(22) 出願日 平成13年9月14日 (2001.9.14)

(71) 出願人 501407676

武永 文央

東京都町田市能ヶ谷町380-1 オーベル

鶴川3-106

(72) 発明者 武永 文央

東京都町田市能ヶ谷町380-1 オーベル

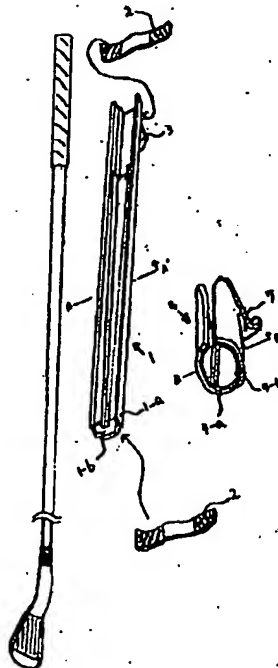
鶴川3-106

(54) 【発明の名称】 ゴルフクラブへの着脱可能なゴルフスイング練習機具

(57) 【要約】

【課題】 スイング練習器具と各人が実際に使用する競技用クラブとでクラブの長さ・重さ・グリップなどが異なるため、アドレスでの違和感を生じるとともに、練習したスイングができなくなる点である。

【解決手段】 市販されている競技用ゴルフクラブのグリップおよびシャフトに着脱可能な一本以上のレール部と、そのレール部に沿ってクラブヘッドとグリップエンドの両方向にスライドするスライド部とで構成している。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ゴルフクラブのグリップおよびシャフトに着脱可能な一本以上のレール部と、そのレール部に沿ってクラブヘッドとグリップエンドの両方向にスライドするスライド部とで構成されることを特徴とするゴルフスイング練習用具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】 本発明は、ゴルフスイング練習のために使用するに機具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来のゴルフスイング練習機具には、ゴルフクラブの形状を変更したものが多く、シャフトが短いもの、クラブ全体が重いもの、グリップ部に手型をつけたもの、クラブヘッドの代わりにプレートをつけたもの等が市販され使用されている。

【0003】 しかし、実際にゴルフを競技するときには個人が所有している競技用ゴルフクラブを使用するにもかかわらず、前述のようなゴルフスイング練習機具でゴルフスイングの練習を反復して行っており、ゴルフスイング練習機具ではきれいなスイングができるようになって、ゴルフスイング練習機具と競技用クラブとの長さや重さなどの違いがあることや、競技用クラブにもドライバーからウェッジなど長さや重さが異なるクラブがあることによって、競技用クラブで実際にボールを打つと練習したスイングができないという欠点があった。さらに、右利き用と左利き用の区別があるため、左利き用のゴルフスイング練習機具が数少ないという欠点もあった。

【0004】 また、これらの欠点はゴルフスイング練習機具で練習してもゴルフがうまくならないという考えを発生させ、せっかく購入したゴルフスイング練習機具を使用しなくなる、購入したくても左利き用のゴルフスイング練習機具がないなどの問題があった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 解決しようとする問題は、スイング練習器具と各人が実際に使用する競技用クラブとでクラブの長さ・重さ・グリップなどが異なるため、アドレスでの違和感を生じるとともに、練習したスイングができなくなる点である。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明は、市販されている競技用ゴルフクラブのグリップおよびシャフトに着脱可能な一本以上のレール部と、そのレール部に沿ってクラブヘッドとグリップエンドの両方向にスライドするスライド部とで構成されることを特徴としている。

【0007】

【発明の実施の形態】 市販されている競技用ゴルフクラブのグリップおよびシャフトに着脱可能な一本以上のレール部と、そのレール部に沿ってクラブヘッドとグリップ

ブエンドの両方向にスライドするスライド部とで構成している。

【0008】

【実施例】 図1は本発明の第1実施例の組み立て斜視図、図2は本発明の第1実施例の断面図、図3は本発明を使用した練習方法の図である。

【0009】 レール部1は、軽量で適度な柔軟性があり外表面が滑りやすい半円形で棒状の金属製または硬質樹脂製のレール外皮1-aと、レール外皮1-aの内部に装着される適度な柔らかさがあり滑りにくい発砲樹脂1-bとで構成されている。

【0010】 さらにレール部1の両端にはマジックテープ2が取り付けられる構造になっており、レール部1の発砲樹脂1-bの溝にゴルフクラブのシャフトをはさみこみ、前述のマジックテープ（登録商標）2でゴルフクラブのグリップやシャフトの任意の場所に固定できるように構成されている。このとき、発砲樹脂1-bはシャフトへのすり傷防止と、レール部1とシャフトの位置ずれ防止の役割を果たしている。このレール部1は、シャフトへのすり傷防止のためや、スライド部4が安定したスライドができるガイド機構のために2本以上設けることも可能である。

【0011】 また、レール部1のグリップ側には、ストッパー3がレール外皮1-aに取り付けられている。

【0012】 前述のスライド部4は、レール部1のレール外皮1-a側からシャフトを巻き込むように取り付けられるもので、レール部1の長手方向にのみスライドしやすいように、レール部1のレール外皮1-aの外形より多少大きめの滑りやすい半円形の棒状の金属製または硬質樹脂製のスライド内皮4-aが内側に装着された柔らかい樹脂製のスライド外皮4-bで構成されている。このときスライド部4のスライド方向がレール部1の長手方向以外に動かないようにするために、ねじれ防止部5および6をレール部1およびスライド部4にそれぞれ設けることも可能で、このねじれ防止機構によりスライド部4のねじれによる無駄な動きを抑止することができる。

【0013】 さらに、スライド部4のグリップ側には、前述のストッパー3と相対するストッパー7が取り付けられている。レール部1が装着されたゴルフクラブを握った片方の手に、もう一方の手で持ったスライド部5が衝突した時の指の損傷を防ぐことができる。

【0014】 本発明は、以下のように使用する。前述の説明のように、市販されている競技用ゴルフクラブのグリップエンドからほぼ一握り分はなした位置に、レール部1のストッパー3が配置されるようにシャフトをレール部1の発砲樹脂部1-bの溝に挟み込み、レール部1の両端のマジックテープにてゴルフクラブに取り付ける。次に、スライド部4がレール部1に沿ってスライドするように、スライド部4がレール部1およびゴルフク

ラブを包み込むように下側から取り付ける。

【0015】本発明を装着したゴルフクラブで、通常のゴルフのアドレスを行う場合には、スライド部4のストッパー7がレール部1のストッパー3に接触する状態で、片方の手でストッパー3に人差し指が接触するように、小指から中指の3本を主体にゴルフクラブのグリップエンド部分を握り、もう一方の手でストッパー7に薬指が接触するようにスライド部4を薬指と中指を主体に握る。このときの握り方は基本的なゴルフグリップの方法と同様になる。例えば、右利きの人は左手でグリップ部分、右手でスライド部4を握り、左利きの人は逆に

なる。以下の説明では右利きの人を例に説明する。
【0016】次に、本発明を装着したゴルフクラブでのスイングについて説明する。図3のように、テイクバックではレール部1とスライド部4のスライド効果を利用して、スライド部4を握った右手をクラブヘッドの方向にスライドさせて、グリップを持った左手から離れた状態でトップオブスイングになる。逆に、右手と左手が離れたトップオブスイングからのダウンスイングではレール部1とスライド部4のスライド効果を利用して、ス

ライド部4を握った右手をグリップエンドの方向にスライドさせて、右手と左手が近づいていき、アドレスの形を再現したストッパー3・7が接触したグリップにてインパクトを向かえ、このグリップ状態のままフォロースルーおよびフィニッシュへ移行する。
【0017】このように、テイクバック時にはスライド部4を握った右手をクラブヘッド側にスライドさせて左手と右手を離すことにより、右肩が抵抗なく回り、自然で大きいスムーズな肩の回転が実現できるようになる。さらに、ダウンスイング時にはスライド部4を握った右手をグリップ側にスライドさせ左手に近づけることにより、インサイドからの正しいダウンスイングを身に付けることができ、スライスボールの主な原因となるアウト

サイドインの軌道を防止できる。インパクトからフォロースルーにかけては右手が伸びた力強く両手の返しが自然なスイングを身に付けることができ、インパクトでヘッドスピードを最大に加速させることができる。左手と右手が離れることにより一定したスイングテンポのいい正しいスイングになる。

【0018】

【発明の効果】本発明は以上に説明したように、レール部とレール部に沿ってクラブヘッドとグリップエンドの両方向にスライドするスライド部という単純な構成であるため、非常に安価なスイング練習器具を提供することが可能になる。さらに、市販されている競技用ゴルフクラブへの着脱が可能のため、右利き・左利きの区別や、男性用・女性用の区別や、大人用・子供用の区別なく、各人が使用している全てのゴルフクラブにおいて前述のような正しいスイングを身に付けるためのスイング練習が可能になる。また、各人が競技で使用するゴルフクラブでスイング練習をするため、本発明を使用して体得したスイングをゴルフ競技のスイングに反映させることが非常に容易になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例の組み立て斜視図である。

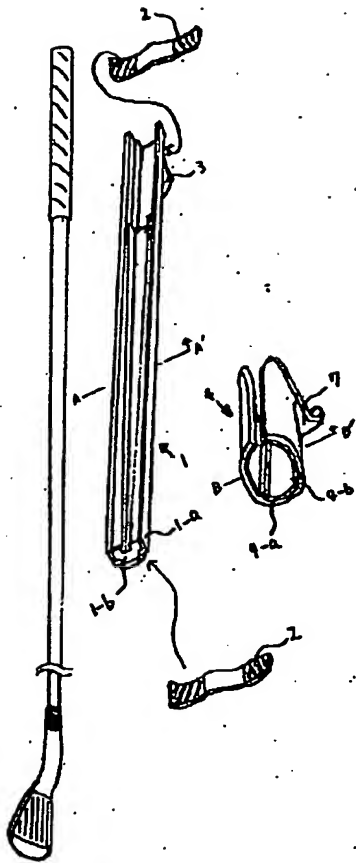
【図2】図2は本発明の第1実施例の断面図である。

【図3】図3は本発明を使用した練習方法の図である。

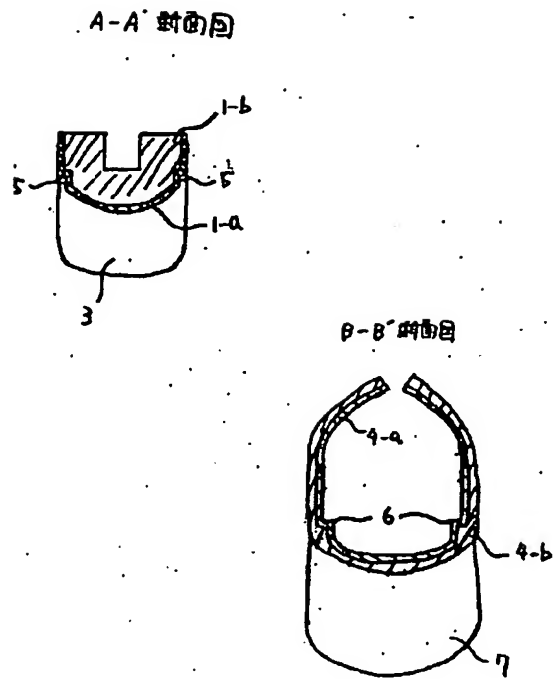
【符号の説明】

- 1 レール部
- 2 マジックテープ
- 3 ストッパー
- 4 スライド部
- 5 ねじれ防止部
- 6 ねじれ防止部
- 7 ストッパー

【図1】



【図2】



【図3】



PAT-NO: JP02003079776A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2003079776 A

TITLE: SWING PRACTICE IMPLEMENT MOUNTABLE GOLF CLUB

PUBN-DATE: March 18, 2003

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TAKENAGA, FUMIHISA

COUNTRY

N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

TAKENAGA FUMIHISA

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP2001322856

APPL-DATE: September 14, 2001

INT-CL (IPC): A63B069/36

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To solve the problems with a golf swing practice implement that the lengths, weights, grips, etc., of clubs vary between the golf swing practice implement and the clubs for s actually used by respective persons and therefore the sense of discomfort at addressing arises and making of a practiced swing is not possible.

SOLUTION: This implement comprises ≥1 rail section mountable to the grip and shaft of the commercially marketed golf club for the competition and a sliding section which slides in both directions of the club head and a grip end along the rail section.

COPYRIGHT: (C)2003,JPO